

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「公共交通機関における新型インフルエンザ等対策に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及び対応	
<p>有識者：岩倉 成志氏 芝浦工業大学 工学部土木工学科 教授</p> <p style="padding-left: 2em;">和田 耕治氏 独立行政法人国立国際医療研究センター 国際医療協力局 医師</p> <p style="padding-left: 2em;">丸谷 浩明氏 東北大学災害科学国際研究所 兼 大学院法学研究科 教授</p> <p style="padding-left: 2em;">指田 朝久氏 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 上席主席研究員</p> <p style="padding-left: 2em;">本田 茂樹氏 株式会社インターリスク総研 取締役</p>	
意見の概要	意見に対する対応
<ul style="list-style-type: none"> • 公共交通機関の利用者側である一般企業が事業継続計画を策定する際に、どの程度、公共交通機関が動いているのか認識できていないのが現状である。何らかの変数（3割なのか、5割なのか）を示せば、それを前提として一般企業が事業継続計画を策定することができるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実在する鉄道路線のデータをもとに、国交省において感染ピーク時における想定される運行計画を設定し、その混雑状況についてシミュレーションを実施した結果を示すこととした。
<ul style="list-style-type: none"> • 鉄道利用者全員にマスクの着用を求めると、供給不足に陥り医療機関への供給に支障をきたす恐れがある。しかしながら咳症状がある利用者がマスクをしていないと車内トラブル等により運行への支障が発生する恐れもある。混雑率が250%程度の状況においては、マスクという手段以外では咳エチケットの履行が困難となることも想定しておくべきではないか。 • 公共交通を利用する人の中から感染者、症状のある者を特定することは現実的に難しい。現段階においては、感染予防上の効果を根拠に一定の旅客に公共交通機関の利用をしないよう強制力のある対策を行うこととすることは困難ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • マスクの着用は強制ではなく、呼びかけという考え方で整理した。また、咳エチケットの呼びかけは、新型インフルエンザ等発生時のみならず平常時においても実施すべき対策とし、その上で、新型インフルエンザ等が実際に発生した場合の咳エチケットの呼びかけについては、地域における感染の状況、混雑の状況、マスクの供給状況等を十分に考慮し、呼びかけの方法、内容等を工夫し柔軟に対応することが望ましいとした。

有識者意見の概要及び意見に対する対応

<ul style="list-style-type: none">公共交通事業者による現実的な車両、駅施設等の消毒実施頻度は、1日に1回程度の実施であり、あまり有効性は感じられない。業務リソースが不足している中で、効果がある対策に集中するという方針を出さないといけない。	<ul style="list-style-type: none">車両、駅施設等の消毒は、頻繁に実施できるものではなく、その感染予防効果も不明であることから、現段階では優先順位の高い対策ではなく、各事業者の判断により可能な限り、可能な範囲で実施する対策とする程度が適当であるとした。
<ul style="list-style-type: none">シミュレーションで示された混雑状況となれば、車両内や駅施設等での大きな混乱やトラブルが起こることも想定され、公共交通機関利用者である一般企業において事業継続に必要な従業員の出勤に大きな影響が発生し、その結果社会機能の維持に影響を及ぼす恐れがあるのではないかと懸念されている。	<ul style="list-style-type: none">各公共交通事業者においては、特に新型インフルエンザ等の流行のピーク時における円滑な輸送を可能な限り確保することが求められることから、路線ごとに公共交通事業者間での連携を図り、具体的な運行計画の検討を進めることが必要であるとした。公共交通機関の利用者側である一般企業においては、特に新型インフルエンザ等の流行のピーク時において従業員の出勤に支障が生じうることを十分考慮し、自らの事業継続のための観点から、通常の時差出勤のみならず、休日シフト等の実施により混雑緩和に協力していただく必要があるとした。